

編集後記

「神奈川大学言語研究」第43号は、パンデミックにもかかわらず、著者たちが研究を続け、今年も発行することができました。現在の状況で、研究者は論文を完成させるために多くの障害を克服してきました。障害を克服することは、おそらくすべての科学の究極の理由です。したがって、言語や言語教育に関する研究論文を中心にこのジャーナルを発行することも進歩の象徴であり、希望の理由です。

障害を乗り越えることで、現実を理解し、個人として、そして社会として前進するための新しいアイデアや手段が得られます。パンデミックの間、共同作業とオンラインシステムの必要性がすべての研究者によって指摘されてきました。これらは、すべての研究所が優先順位を決定する際に考慮しなければならない差し迫った課題であったと思います。そのため、2020年11月25日 ZOOM 開催で言語研究センターは最初のオンラインシンポジウムを開催しました。

今年、言語研究センターの何人かのメンバーが大学を去ります。鈴木陽一先生、ウィリアム・マコウミ先生、ヴィクトル・カルデロン先生、小倉英敬先生、前田マーガレット先生です。心からご尽力いただき、誠にありがとうございました。

言語研究センターは、2021年4月に「みなとみらいキャンパス」へ移設して、新しい本部を作ります。スペースは縮小されますが、引き続き全所員の研究を支援できるよう努めて参ります。

言語研究センター所長
アルトゥーロ バロン